

I-5 業務遂行に当たっての取組

- (1) 地域住民・地方公共団体等との緊密な連携推進
- (2) 環境への配慮
- (3) 良好な都市景観の形成
- (4) 調査研究の実施、技術力の維持向上及び成果等の社会還元
- (5) 都市開発の海外展開支援
- (6) 業務運営の透明性の確保

I - 5- (3) 良好な都市景観の形成

- アーバンフォレスト朝霞浜崎団地における、築40年近く経過した975戸の団地を住みながら再生する、トータル・バリューアッププロジェクトが、「2017年日本建築学会賞(業績賞)」(主催:一般社団法人日本建築学会)を受賞。

コンセプト

首都圏に隣接しながら、かつて「ハケの里山」があった立地であり、その記憶を現代に再生しながら多様なライフスタイルを柔らかく包む、団地全体を森に見立て「URBAN FOREST—団地は森」というコンセプトを設定。アーバンライフと居心地の良い棲み処のコントラストをデザインテーマにした。

改修内容

アイデンティティー[1] | フロアカラー

居住する階に愛着を持てるように、フロアカラーに変化を持たせた。



アイデンティティー[2] | フロア毎の生態系

団地中央部に位置するシャフトに描かれた大木を軸として、各フロアのエレベーターホールや通路等の壁面に、森の生態系を表現。



アイデンティティー[3] | 団地特有の影を光に

落下防止柵等に、森の生態系を編み込んだレースフェンスを採用。



【日本建築学会賞受賞(平成29年)の講評(一部抜粋)】

- ・今後の団地リノベーションの方策、団地の地域資源としての在り方を再考するための先駆的事業として評価できる。
- ・今後発展的・継続的に他の集合住宅に応用されていけば、都市におけるストックの再生にも大きな力となる。

I-5-(5) 都市開発の海外展開支援

○ アジア新興国における大規模な都市開発プロジェクトに対し、我が国における大規模な都市開発等の経験を活かして、調査やJ-CODEの事務局運営等を行った。

【タイ・バンサー駅周辺における事業概要】

- ・日本のODAの活用により整備が進む都市鉄道レッドライン※のバンサーグランド駅は、複数の鉄道路線が乗り入れるターミナル駅である。 ※レッドライン: 2020年運行開始予定
- ・隣接地に広大な鉄道用地を含むことから、バンサー駅周辺を含んだ一体開発が検討されており、日本企業の参入を目指した取組が進められている。

【主な取組み】

- ①タイ運輸大臣の要請に対応し、国土交通省の関連調査報告書に機構のプロジェクトマネジメント機能を紹介してその理解を深めた。
- ②海外エコシティプロジェクト協議会(J-CODE)の事務局運営を通じて、現地事業主体をはじめとした政府、関係機関及び企業との関係構築を図った。

今後、「地区開発マスタープランの策定」、「都市開発事業のフィージビリティ調査」等の業務を現地事業主体等から担い、**我が国企業が受注しやすい環境の整備**について、対応を検討する。



バンコク中心部鉄道路線図およびバンサー地区位置図 (出典: JICA)



建設中のバンサー駅(2018年3月)

バンサー駅周辺地区開発イメージ図 (出典: JICA)

